



**2017年3月期決算、2018年3月期業績予想
について**

2017年5月15日

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

※ 本資料中の「E」は記載の数値が計画または業績予想であることを表しています。

- 2017年3月期
 - － 連結決算の状況
 - － トピックス
 - － セグメント別の状況
 - － 中期財務目標の進捗
 - － グローバルビジネスの強化
- 2018年3月期
 - － 業績予想の概要
 - － セグメント別業績予想の概要
- 株主還元
- (参考)B2B2Xモデルの主な取組み
- (参考)研究開発の主な取組み
- Appendix

- 営業利益は、+1,916億円(+14.2%)増益
- 当期純利益は、過去最高益
- EPSは、+41円増の391円

連結決算状況

➤ 営業収益	:	11兆3,910億円	(対前年 ▲1,500億円 [▲1.3%])
➤ 営業利益	:	1兆5,398億円	(対前年 +1,916億円 [+14.2%])
➤ 当期純利益*	:	8,001億円	(対前年 +624億円 [+8.5%])
➤ EPS	:	390.94 円	(対前年 +40.60 円 [+11.6%])

* 当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

● ネットワークサービスの収益力強化

➤ ユーザ基盤の拡大

● モバイル契約数	:	7,488万	(純増+ 392万)
(再)カケホーダイ&パケあえる	:	3,707万	(純増+ 736万)
● FTTH契約数	:	2,005万	(純増+ 79万)
(再)コラボ光	:	874万	(開通 474万 [新規 193万 、転用 282万])

➤ Wi-Fiエリアオーナー数の拡大* : **557** (対前年度末+ **164**)

● グローバル・クラウドサービスの拡大

➤ クロスセル受注額 : **9.4億ドル**

● B2B2Xモデルの推進

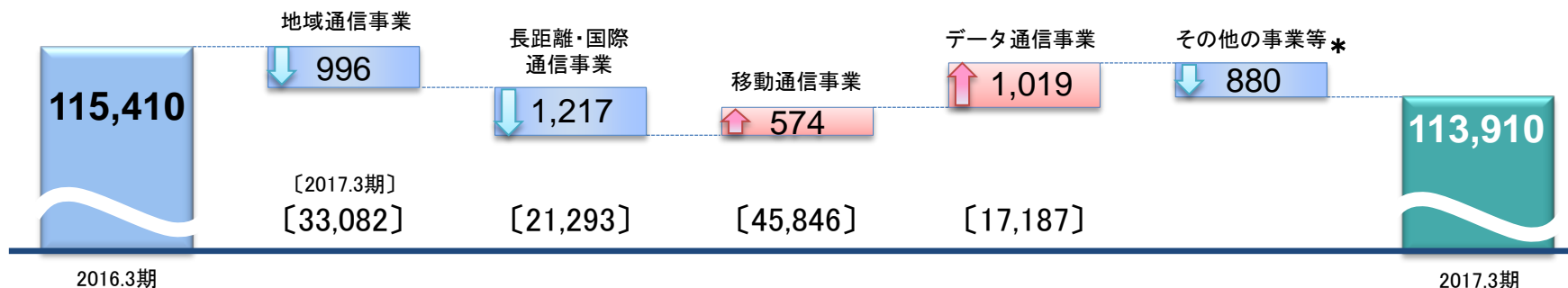
➤ スポーツ、伝統芸能、製造業、コネクティッドカー等の様々な分野でNTTグループの最先端技術を活用し他社・自治体との協業を拡大

* 小規模飲食店等を除く、大手企業ユーザ・自治体の顧客数

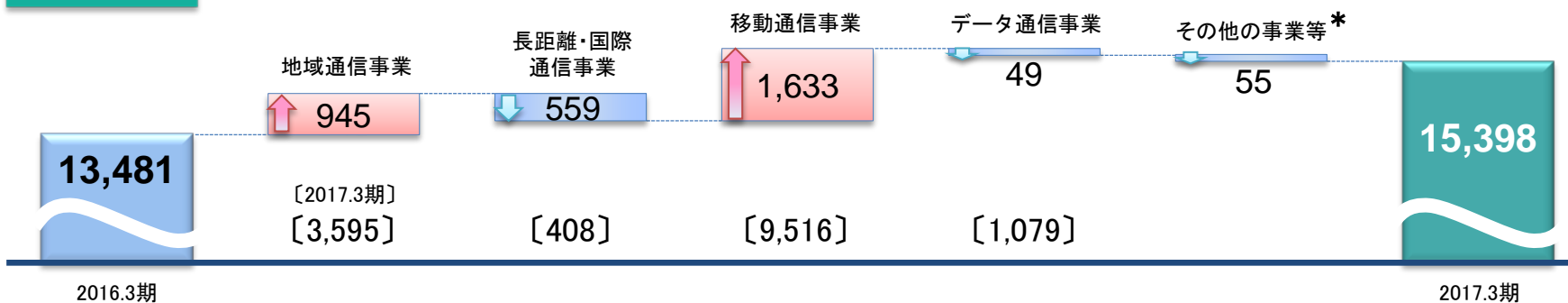
■ 地域通信、移動通信セグメントで大幅な増益

営業収益 (対前年: ▲1,500)

(単位: 億円)



営業利益 (対前年: +1,916)



*セグメント間取引消去・その他を含む

実績
(2017年3月期)中期財務目標
(2018年3月期)

EPS成長

390.94円

400円以上

設備投資の効率化

(国内ネットワーク事業*)
[対2015年3月期]

▲1,364億円

▲2,000億円以上

コスト削減**

(固定/移動アクセス系)
[対2015年3月期]

▲6,540億円

▲8,000億円以上

海外売上高 / 営業利益***

\$ 16.9B / \$ 0.8B

\$ 22B / \$ 1.5B

* コミュニケーションズのデータセンター等を除く

** 減価償却方法の見直し影響を除く

*** 買収に伴う無形固定資産の償却費等、一時的なコストを除いた営業利益

2017年3月期の取組み

➤ Go To Market分野

- 多数の大規模クロスセル事例の創出
- グループ横断のクロスセルサポート体制構築
- 営業管理ツールの接続

➤ サービス/オペレーション分野

- NTTセキュリティの設立・営業開始
- グループ内事業会社間を跨いだサービスのパッケージ化、サービス間の連携強化

➤ 調達分野

- 仕様の絞込み、グループ連携による調達によるコスト削減

2018年3月期の取組み

● NTTコミュニケーションズとディメンションデータのクラウドサービスの統合・強化 (NTTコムからディメンションデータへの卸提供)

<目的>

- ビジネス要求条件に応じたセキュリティ、コンプライアンス
- 重要システムをサポートするプライベートクラウドとパブリッククラウドの組み合わせ
- 技術革新を取り込み、デジタルビジネスを支援するオープンなクラウド
- フルスタックに跨るハイブリッドIT環境の統合管理

● グループ横断のデリバリ連携強化

● グローバルアカウント活動の強化による大規模案件の獲得

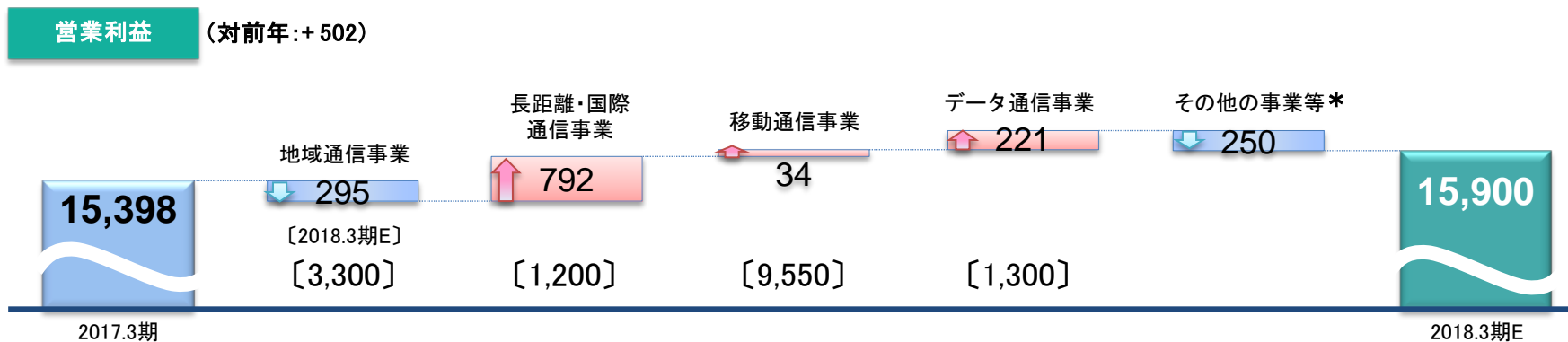
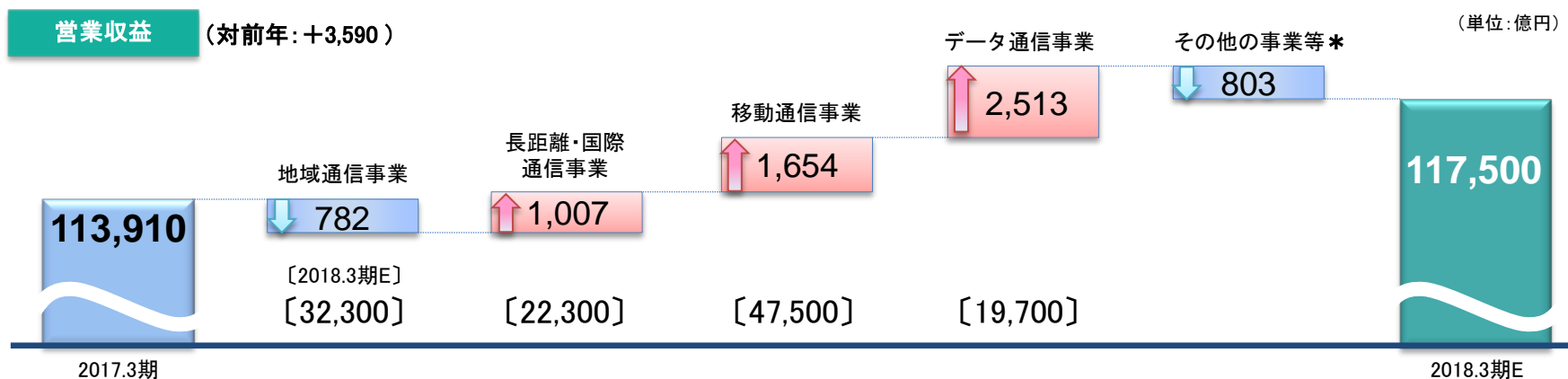
- 営業利益は、+502億円(+3.3%)増益の1兆5,900億円
- 営業収益、営業利益、当期純利益で過去最高
- EPSは、中期財務目標(400円以上)を達成

連結収支計画

➤ 営業収益	:	11兆7,500億円	(対前年 + 3,590 億円	[+3.2%])
➤ 営業利益	:	1兆5,900億円	(対前年 + 502 億円	[+3.3%])
➤ 当期純利益*	:	8,300億円	(対前年 + 299 億円	[+3.7%])
➤ EPS	:	414.00 円	(対前年 + 23.06 円	[+5.9%])

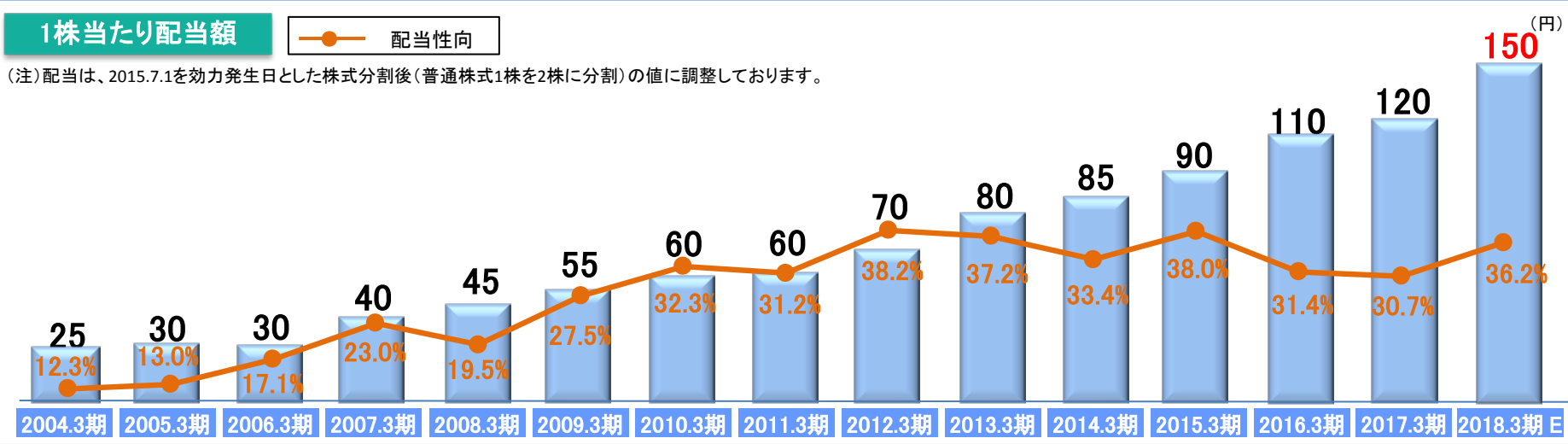
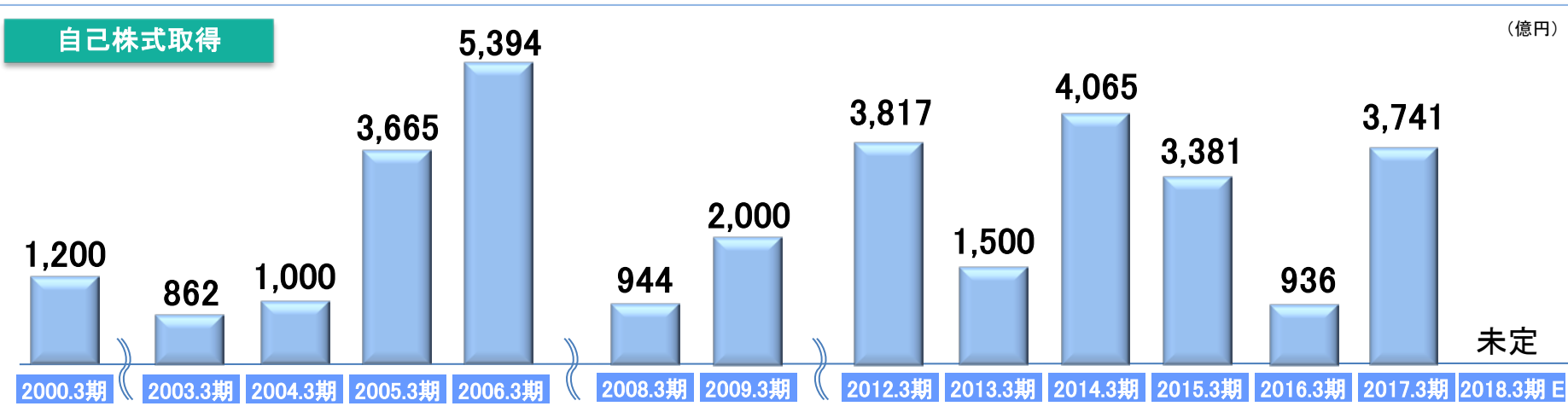
* 当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

■ 長距離・国際通信、移動通信、データ通信セグメントにおいて増収増益



*セグメント間取引消去・その他を含む

- 自己株式取得：2017年3月期は、政府・市場からの取得分として3,741億円を実施
（上記に加え、2017年4月に市場からの取得分として432億円を実施）
- 配当：2018年3月期は、対前年30円の増額により、年間1株当たり150円の配当



(参考) B2B2Xモデルの主な取組み(2017年3月期)



2016.4～ 松竹

歌舞伎とICTの融合による
新たな感動体験



2016.5～



ICTによる新たな観戦体験



2016.6～



AI・IoTによる農業・水・環境ソリューションの高度化



2016.7～



スタジアムのスマート化、新たな視聴体験



2017.1～



リアル店舗連携のデジタル広告、
駅構内ナビゲーション



2016.7～



IoTによる工場での製造・生産の最適化



2017.2～



ウェアラブル生体センサを
用いたリハビリ効率の向上



2016.7～



札幌市ICT活用
プラットフォームを
通じたICTまちづくり



2016.9～



生体情報を組合わせた安全
運転管理ソリューション



2016.11～



重要インフラの安心・安全な運用



2017.3～



コネクティッドカー分野での技術開発・検証

世界が驚く対話技術

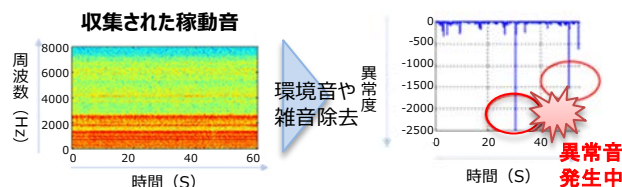
- SXSW2017(3/10-19 米オースティン)にて、「複数の人間とロボットとの自然な対話」等を披露



USA TODAY他、地元紙1面トップに掲載

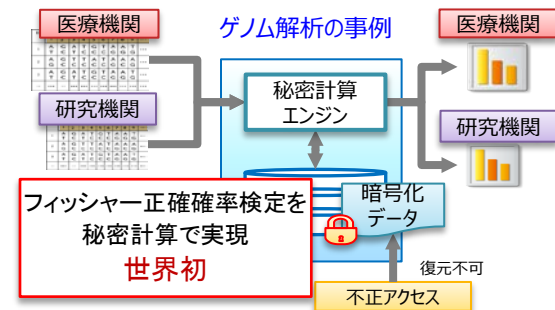
世界一の音響処理技術

- 生産設備機器の稼働音と故障の特性を客観的に可視化・解析する「異常検知技術」を日立造船へ提供



世界最高のセキュリティ技術

- 最も機微な個人情報「ゲノム情報」を暗号化したまま複数の機関が相互に開示せず正確に分析できる「秘密計算技術」の開発



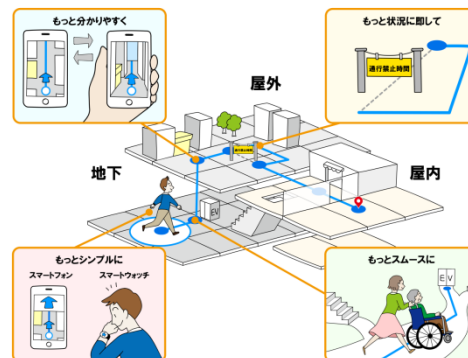
スポーツ選手強化を実現する技術

- 投手の球筋を臨場感高く体験可能な「スポーツ人稱視点合成技術」を用いたプロ野球選手向けトレーニングシステムを開発し、東北楽天ゴールデンイーグルスとともに実証実験(2017年より商用提供開始)



ダイバーシティ・ナビゲーションの技術

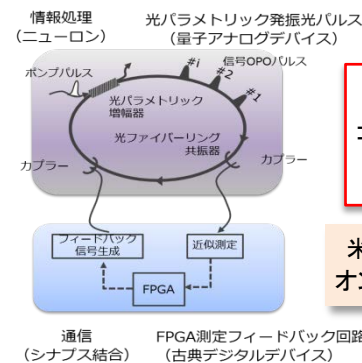
- バリアフリー情報を簡単に収集できる技術「MaPiece」と、平易な立体地図表示を実現する「2.5D地図表現」技術を開発



車いすやベビーカーで移動される方や高齢者、訪日外国人などの移動を安心・便利にサポート

全く新しいコンピュータの開発

- 光の量子性を利用した全く新しい計算機「量子ニューラルネットワーク」を開発し、現代コンピュータでは解くことが困難な組合せ最適化問題を高速に処理する技術を実現



従来のデジタルコンピュータに比して
約50倍高速化

米国科学誌「Science」
オンライン速報版に掲載

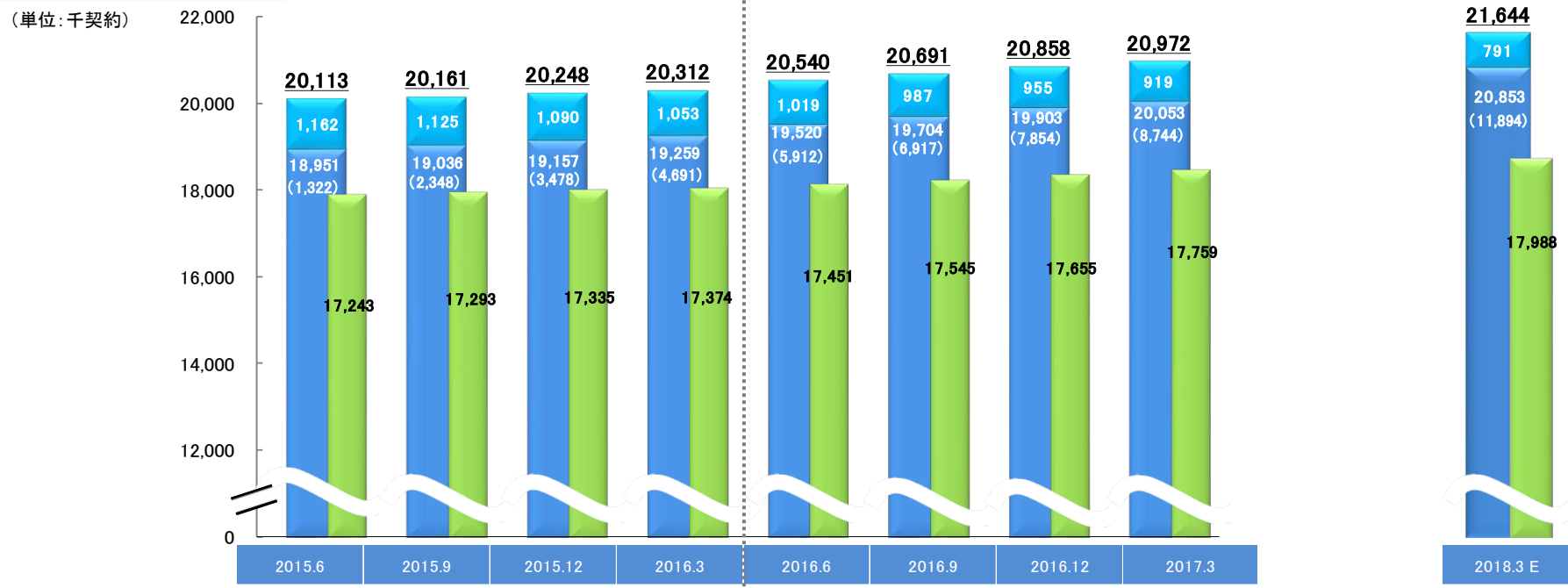
Appendix

ブロードバンド・サービスの進展

固定ブロードバンドの契約数



契約数 ※1※2



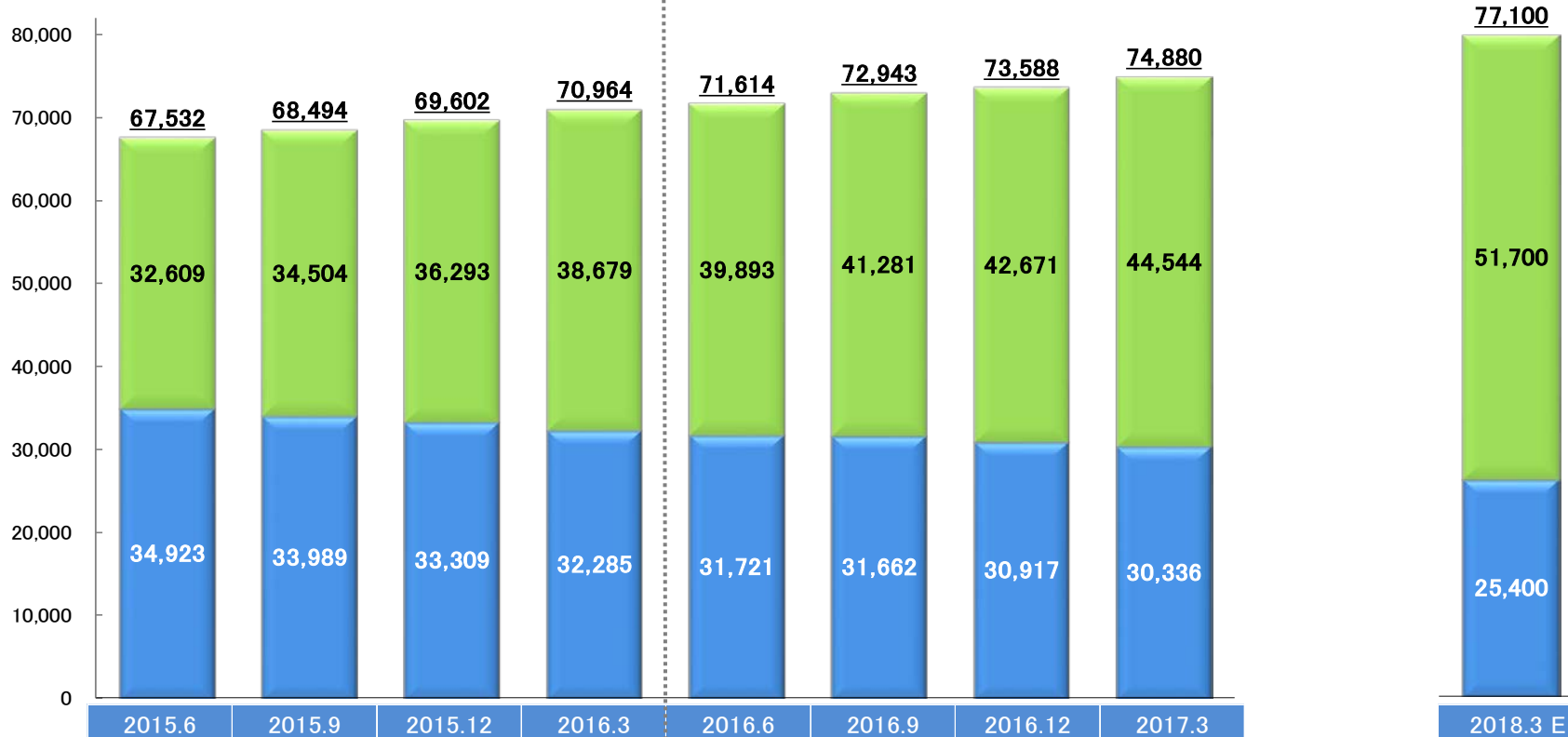
対前四半期別純増(減)数

	2016.3期				2017.3期				2017.3期 通期実績	2018.3期 通期予想
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3		
フレッツ光(コラボ光含む) ※1	235	85	121	102	261	183	199	150	794	800
開通数 ※3	810	559	580	669	786	649	672	750	2,857	2,900
フレッツADSL	▲ 58	▲ 37	▲ 35	▲ 37	▲ 34	▲ 32	▲ 32	▲ 36	▲ 134	▲ 128
ひかり電話 ※4※5	135	50	42	39	77	93	111	104	385	229

※1 フレッツ光(コラボ光含む)は、NTT東日本のBフレッツ、フレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト、フレッツ光ライトプラス及びフレッツ 光WiFiアクセス、NTT西日本のBフレッツ、フレッツ・光プレミアム、フレッツ・光マイタウン、フレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト及びフレッツ 光WiFiアクセス、並びにNTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービス(コラボ光)を含めて記載しております。
 ※2 NTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービス(コラボ光)契約数を()内に記載しております。
 ※3 開通数は移転による開通分を除いて記載しております。
 ※4 ひかり電話は、NTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービスを含めて記載しております。
 ※5 ひかり電話は、チャンネル数(単位: 千)を記載しております。

契約数※

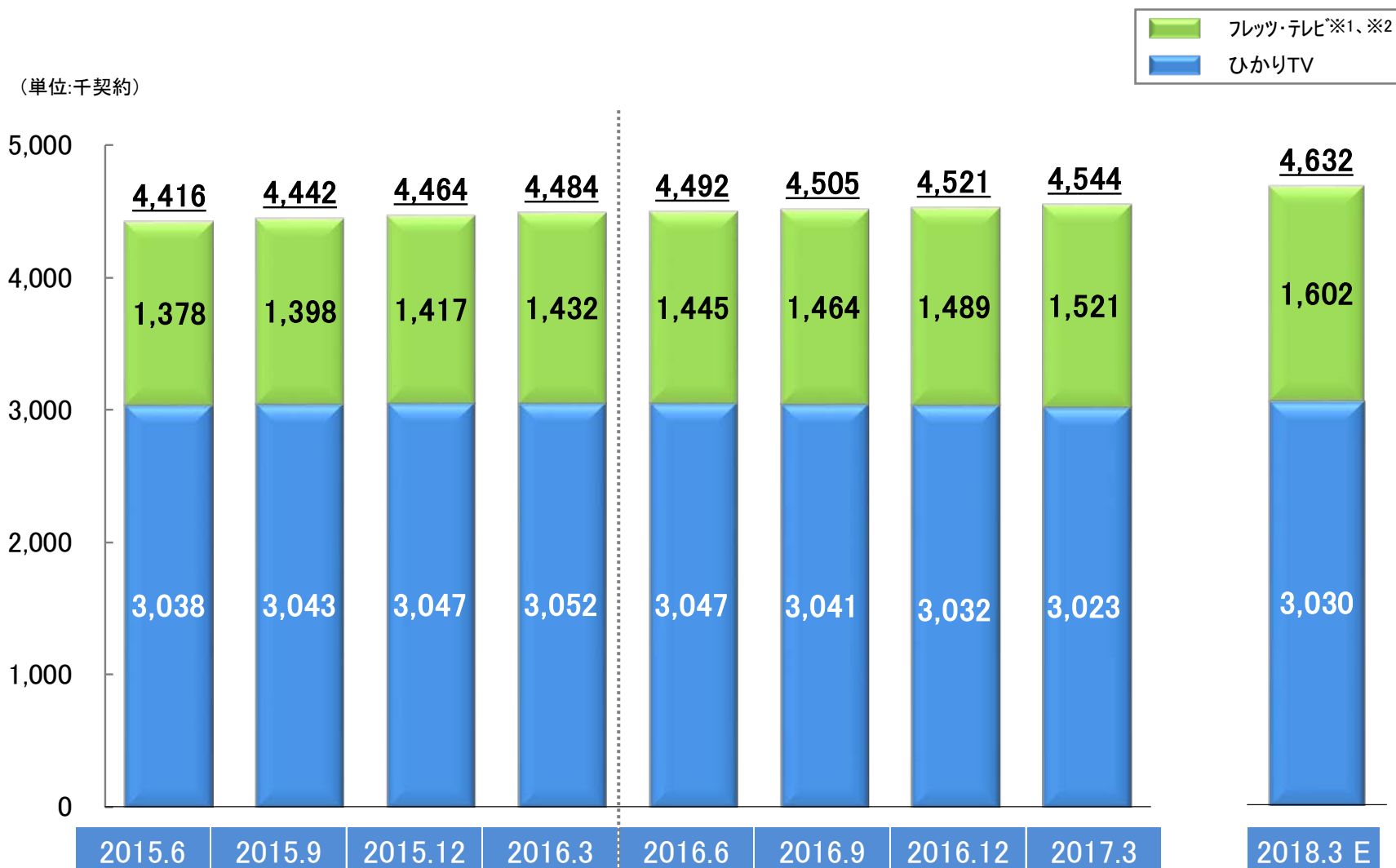
(単位: 千契約)



対前四半期別純増数

	2016.3期				2017.3期				2017.3期 通期実績	2018.3期 通期予想
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3		
LTE(「Xi」)+FOMA	936	962	1,108	1,362	650	1,330	645	1,292	3,916	2,200

※ 通信モジュールサービス契約数は移動ブロードバンド契約数に含めて記載しております。



※1「フレッツ・テレビ」はNTT東西の「フレッツ・テレビ伝送サービス」の契約と、スカパーJSATの放送サービス「スカパーJSAT施設利用サービス」の契約により提供されるサービスです。

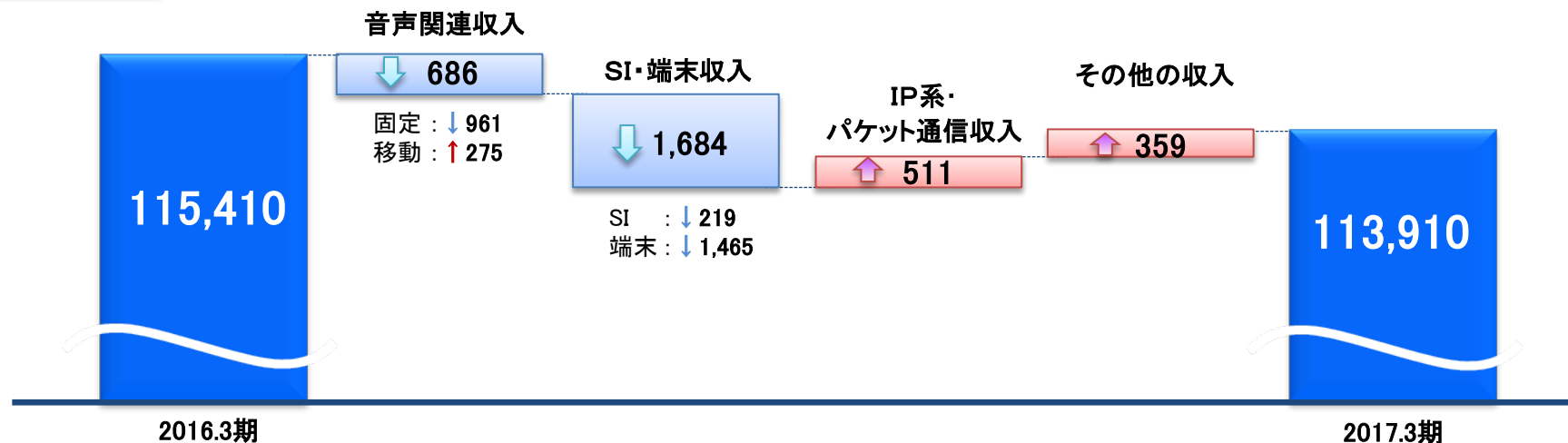
※2「フレッツ・テレビ伝送サービス」は、NTT東日本及びNTT西日本がサービス提供事業者に卸提供しているサービスを含めて記載しております。

財務状況

営業収益

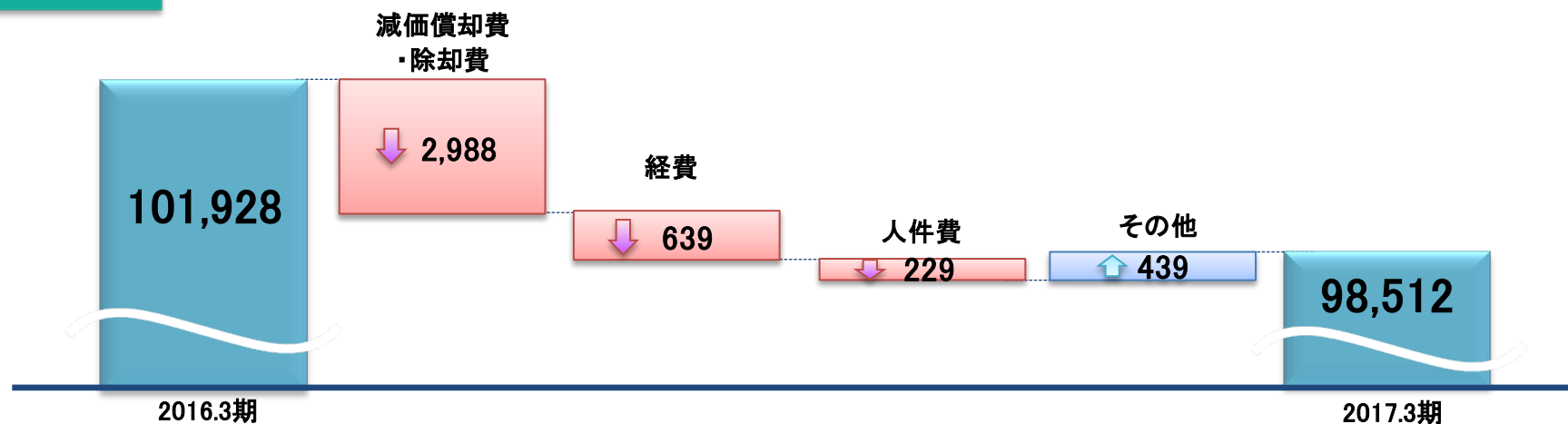
(対前年同期: ▲1,500)

(単位: 億円)



営業費用

(対前年同期: ▲3,416)

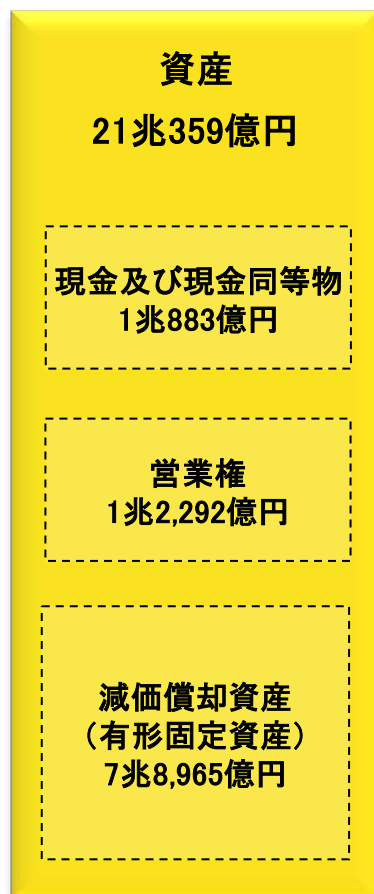


2016年3月期末

2017年3月期末

21兆359億円

21兆2,503億円



(単位：億円)

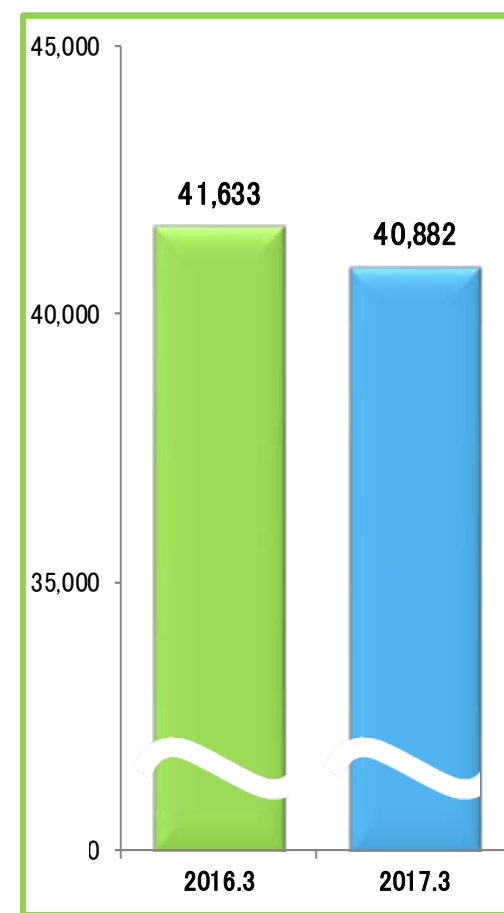
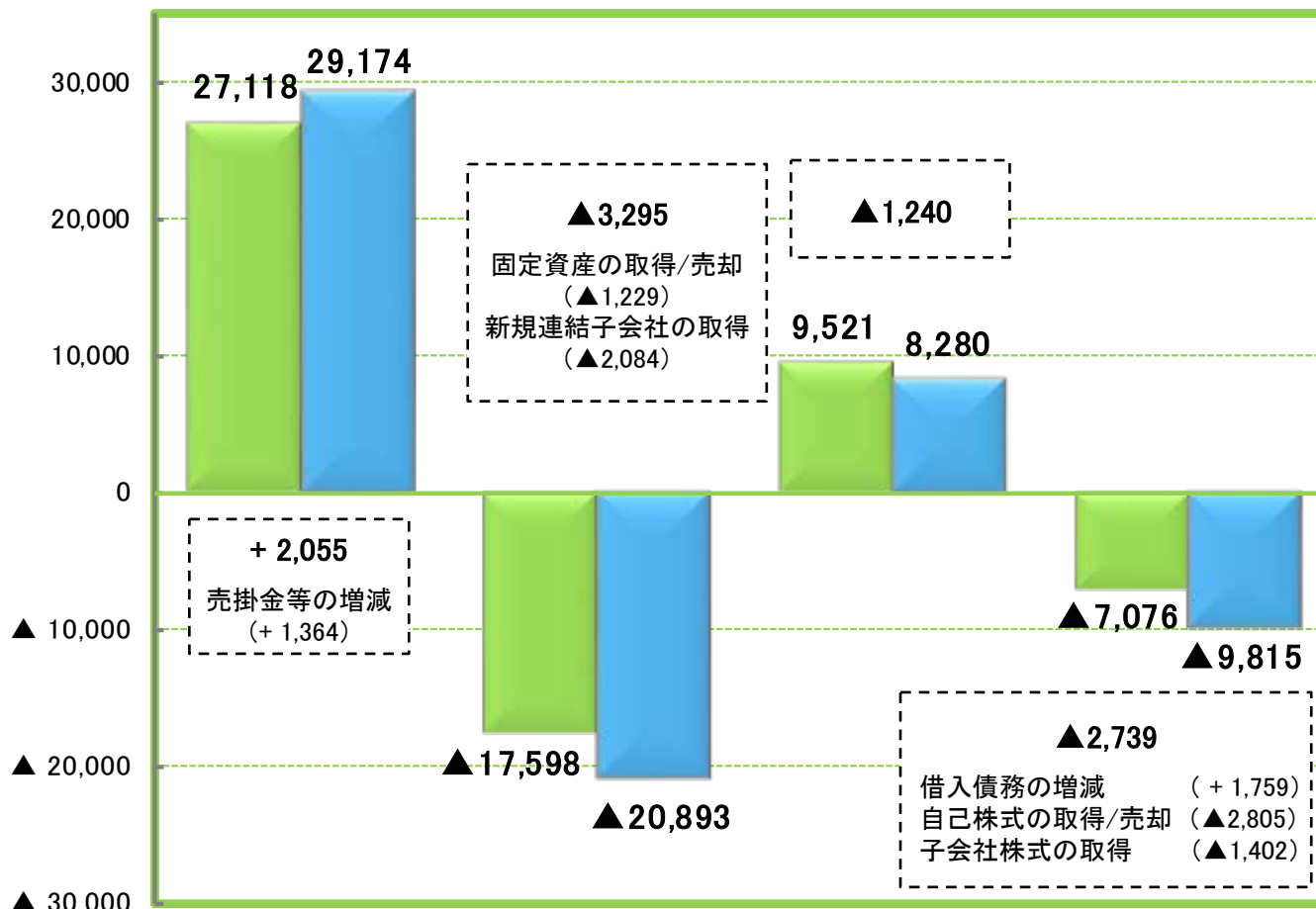
営業CF

投資CF

FCF
(営業CF+投資CF)

財務CF

有利子負債



2016.3期 2017.3期

内は対前年同期増減額

設備投資

(単位:億円)

